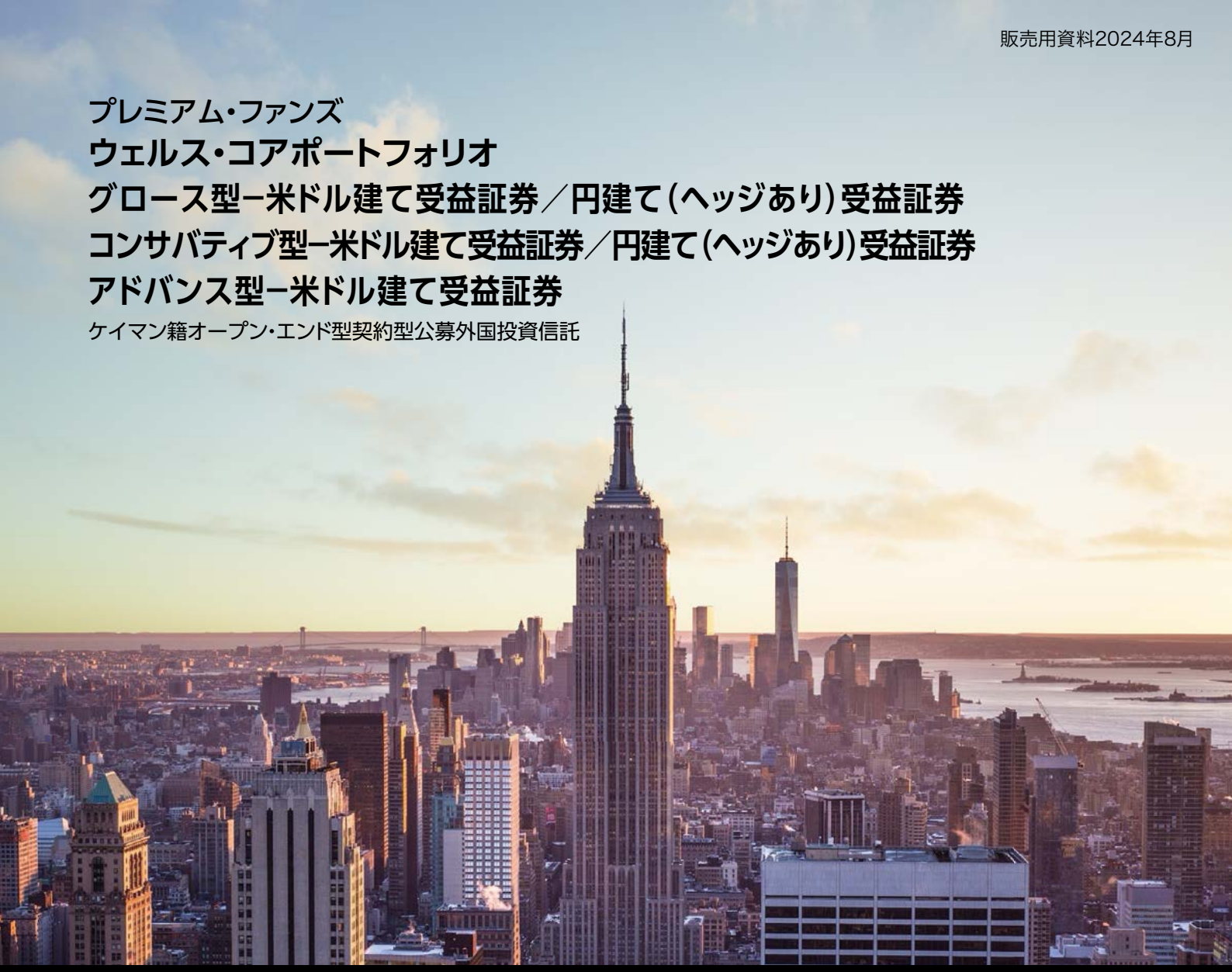
プレミアム・ファンズ

ウェルス・コアポートフォリオ
グロース型－米ドル建て受益証券／円建て（ヘッジあり）受益証券
コンサバティブ型－米ドル建て受益証券／円建て（ヘッジあり）受益証券
アドバンス型－米ドル建て受益証券

ケイマン籍オープン・エンド型契約型公募外国投資信託



投資信託のお申込みに際しては、投資信託説明書（交付目論見書）等をよくお読みになり、契約内容およびリスク・手数料等をご理解いただいたうえでお客様ご自身の判断と責任においてお取引ください。

投資信託取引に関する注意事項

●投資信託は銀行預金ではなく、預金保険制度の対象ではありません。また、SMBC信託銀行で取扱う投資信託は金融商品仲介口座を通じた取扱いの場合を除き、投資者保護基金の対象ではありません。

●投資信託は、元本・利回りの保証はありません。

その他のご留意事項

※お申込みの際には、「外国証券取引口座約款」に基づき、外国証券取引口座を設定していただく必要があります。

※米国税法上の米国人（米国市民、米国居住者またはグリーンカード保有者）は、居住・非居住にかかわらず投資信託の取引申込みができません。また、非居住者およびSMBC信託銀行への届出住所が日本国外のお客様についても同様となります。

※本資料は販売用資料としてSMBC信託銀行が作成したものです。本資料に記載された情報は、十分信頼に足ると考えられる情報源に基づいておりますが、その情報の正確性、完全性および公平性については、SMBC信託銀行並びにその関連会社が保証するものではありません。また、その情報を使用することにより生ずる、直接または間接のいかなる損失に対しても、責任を負うものではありません。本資料に記載された内容は作成時点のものであり、今後予告なしに変更される事があります。

投資信託説明書（交付目論見書）のご請求・お申込みは

PRESTÍA

商号等	株式会社ＳＭＢＣ信託銀行
登録金融機関	関東財務局長（登金）第653号
加入協会	日本証券業協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ファンド関係会社

投資運用会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナル
管理会社	SMBC日興インベストメント・ファンド・マネジメント・カンパニー・エス・エイ
保管会社および管理事務代行会社	SMBC日興ルクセンブルク銀行株式会社
受託会社	プレミアム・ファンズ・リミテッド
日本における販売会社および代行協会員	SMBC日興証券株式会社
販売取扱会社	株式会社ＳＭＢＣ信託銀行

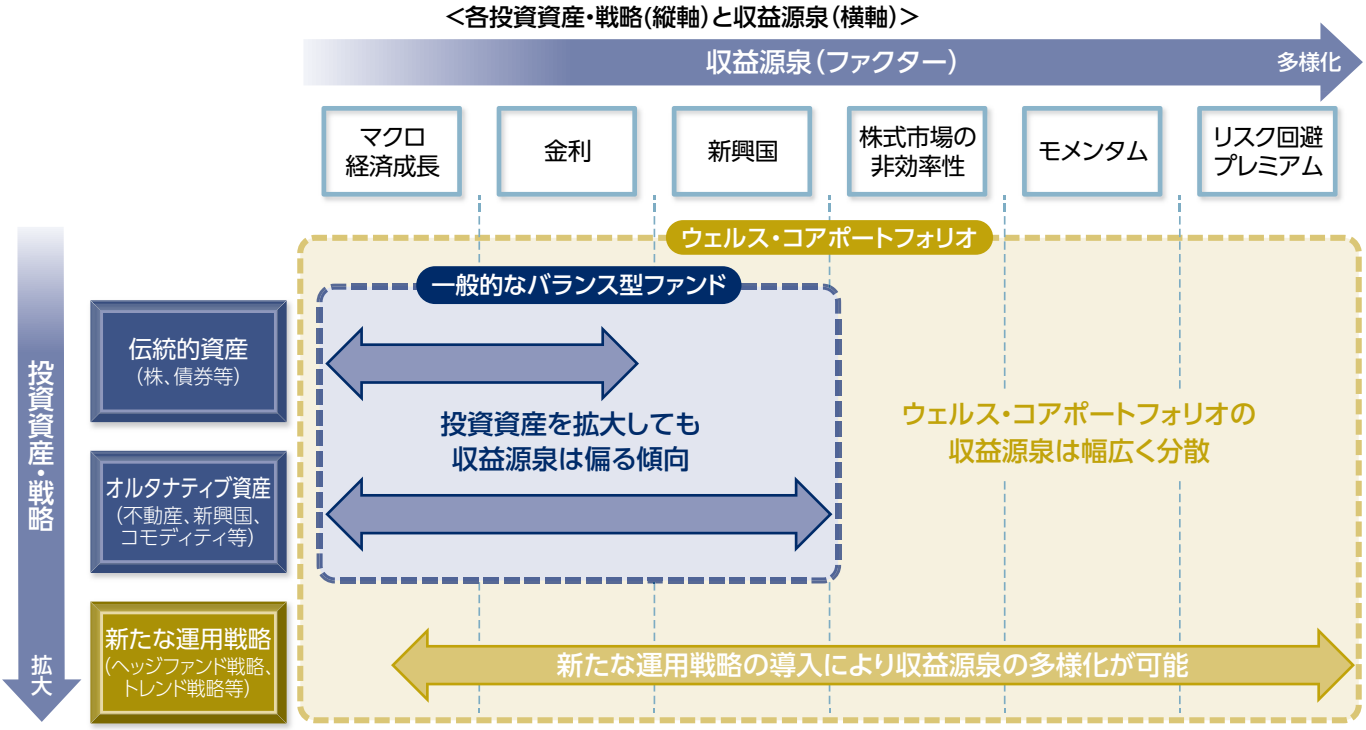
マルチ・アセット運用の新潮流

分散効果を求めて進化してきたマルチ・アセット運用

- 過去様々な危機を経て、マルチ・アセット運用は進化してきました。
- 株や債券が同時に下落するような局面もあり、投資環境が難しくなる中、真の分散が必要とされています。

真の分散を実現する先進的なマルチアセット運用

- 「資産」が分散されていても、内在する「収益源泉」が分散されていなければ真の分散ではありません。
- ウェルス・コアポートフォリオでは、新たな運用戦略を導入し投資資産の拡大を図るとともに、多様な収益源泉（ファクター）を活用することでリスク分散効果を高め、安定的なリターンの獲得を狙います。



出所：ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
上記は、例示をもって理解を深めていただくことを目的とした概念図です。一般的なバランス型ファンドにも株式市場の非効率性、モメンタム、リスク回避プレミアムなどの収益源泉が含まれる場合があります。上記内容は将来の市場環境の変動等により今後予告なしに変更される場合があります。

ウェルス・コアポートフォリオの特徴

プレミアム・ファンズのサブ・ファンドであるウェルス・コアポートフォリオ　コンサバティブ型、グロース型、アドバンス型を個別にまたは総称して「サブ・ファンド」といいます。(当資料内では「ファンド」ということがあります。)

1 先進的なマルチ・アセット運用

世界中の様々な投資資産および戦略に分散投資を行い、市場環境などの変化に応じた時間軸の異なる投資見通しに基づく機動的かつ柔軟な調整を行います。

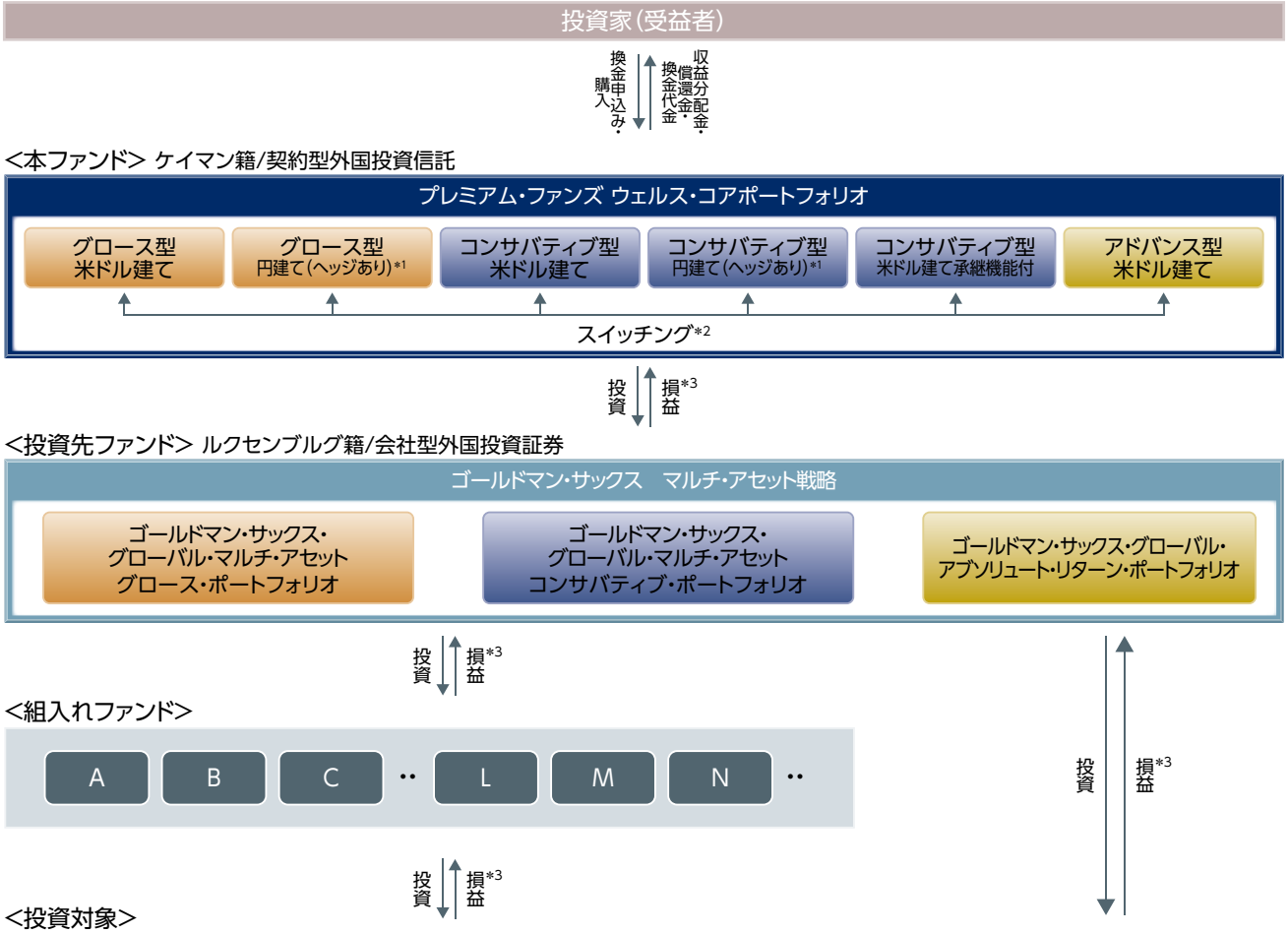
2 分散によるリスク低減効果

多様な収益源泉を取り入れ、分散をはかることで、リスクの低減が期待できます。

3 ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの総合力を活かした運用

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントのノウハウと世界を結ぶグローバル・ネットワークを活用し、20年超にわたりグローバルの機関投資家に革新的なサービスを提供してきたマルチ・アセット専門のチームが運用を行います。

ファンドの仕組み



*1 米ドル建て投資先ファンドへの投資部分に対し、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。為替ヘッジにはヘッジ・コストがかかります。投資先ファンドを通じて保有する米ドル建て以外の資産については、米ドルに対する当該通貨の為替変動の影響を受けます。
*2 スイッチング手数料はかかりません。なお、管理会社は、日本における販売会社または販売取扱会社と協議の上、スイッチングの取扱いを停止する場合があります。
*3 損益は全て投資家である受益者に帰属します。

特徴 1

先進的なマルチ・アセット運用

運用の特徴

ウェルス・コアポートフォリオは、様々な投資資産・戦略に分散投資を行う先進的なマルチ・アセット運用です。

- 幅広い投資資産と多様な収益源泉に分散されたポートフォリオ
- オルタナティブ戦略の積極的な活用
- 市場環境などの変化に応じた時間軸の異なる投資見通しに基づく、機動的かつ柔軟なポートフォリオの調整

<ポートフォリオ構成のイメージ>

短期的な投資機会を機動的に捉える戦術的資産配分

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの総合力を結集し、短期的な市場変動からの収益機会を追求し、リターンの強化を目指す。

中長期的な収益源泉に分散投資

- 長期的な世界経済の成長機会を捕捉
- 市場の下落リスクに備え多彩なオルタナティブ戦略を導入
- 中長期の見通しに応じた資産配分の調整

※上記は例示を目的とするものです。市況動向や資金動向、その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

ポートフォリオの構成

世界中の様々な資産および戦略に幅広く分散投資を行い、世界経済の成長を捉え、さらに戦術的資産配分により魅力的な投資機会を発掘します。

- グロース型投資先ファンドは、株式に重点をおきながら、主として株式および債券に投資します。
- コンサバティブ型投資先ファンドは、債券に重点をおきながら、主として株式および債券に投資します。
- アドバンス型投資先ファンドは、株式や債券などの伝統的資産への投資に加えて、オルタナティブ戦略への投資や、見通しに応じた資産配分を積極的に行います。

短期的な投資機会を捉える

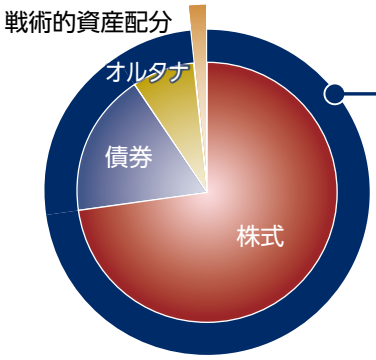
戦術的資産配分
- インド株式
- 日本株式
- …など

中長期的な収益源泉に分散投資

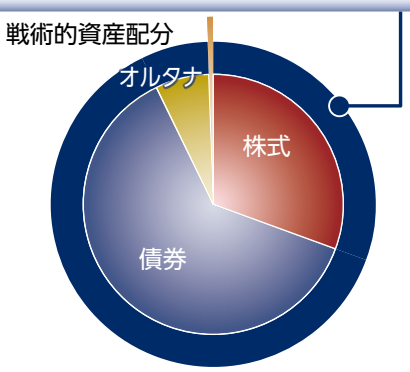
株式
- 先進国株式
- 新興国株式
- リート …など

債券
- 先進国債券
- ハイ・イールド債券
- …など

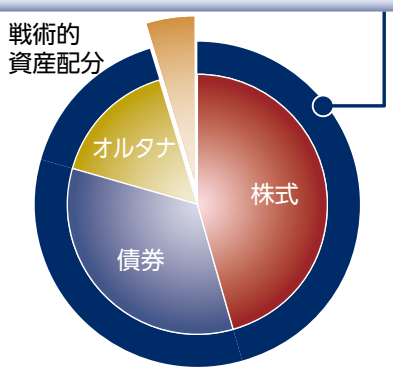
オルタナティブ戦略
- 債券ヘッジファンド戦略
- トレンド戦略
- …など



グロース型



コンサバティブ型



アドバンス型

出所：ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
<配分について>上記は例示をもって理解を深めていただくための概念図であり、特定の時点の実際のポートフォリオ構成を示すものではありません。また将来のポートフォリオ構成を示唆するものではありません。ポートフォリオの内容は、市場の動向等を勘案して随時変更されます。過去のデータは将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。
株式には、債券を除くリスク性資産（リアル・アセットなど）が含まれます。オルタナティブ戦略において実際の投資対象がグローバルな伝統的資産となることがあります。また、戦術的資産配分において実際の投資対象がグローバルな伝統的資産あるいはオルタナティブ戦略となることがあります。

特徴 2

分散によるリスク低減効果

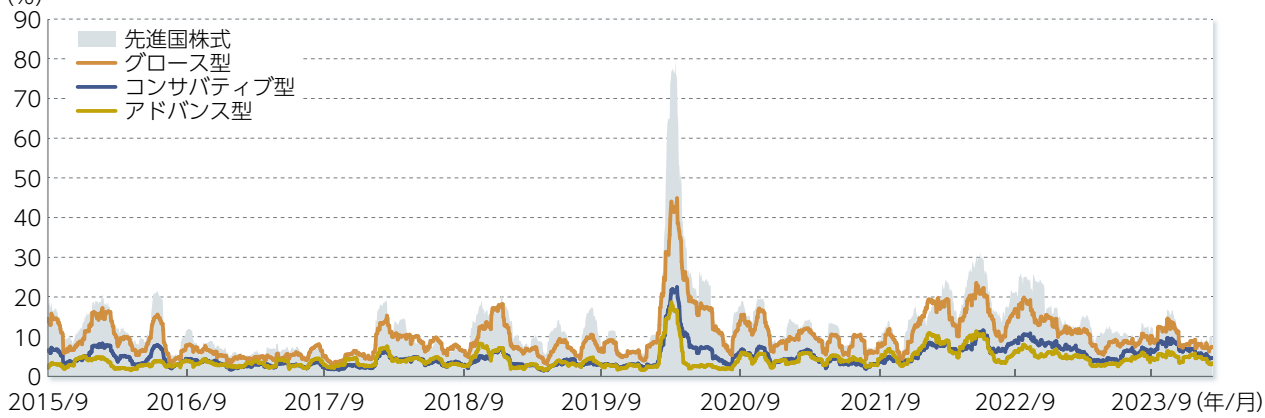
ウェルス・コアポートフォリオでは、多様な収益源泉を取り入れることで、ポートフォリオ全体のリスクを低減させる効果が期待できます。

リスク（ボラティリティ）低減効果

- 過去の実績では、下図の通り先進国株式に比べ、ボラティリティの低減が実現できています。

	先進国株式	グロース型	コンサバティブ型	アドバンス型
ボラティリティ*1	16.0%	11.9%	5.9%	5.0%

<投資先ファンドの1ヶ月ボラティリティ*2の推移>

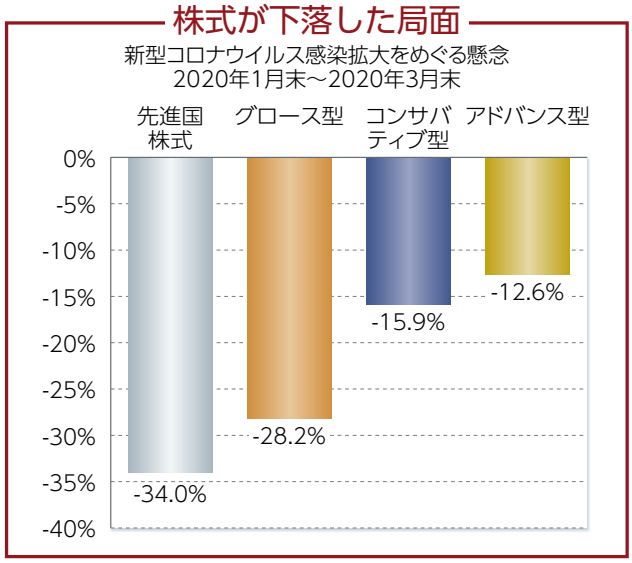


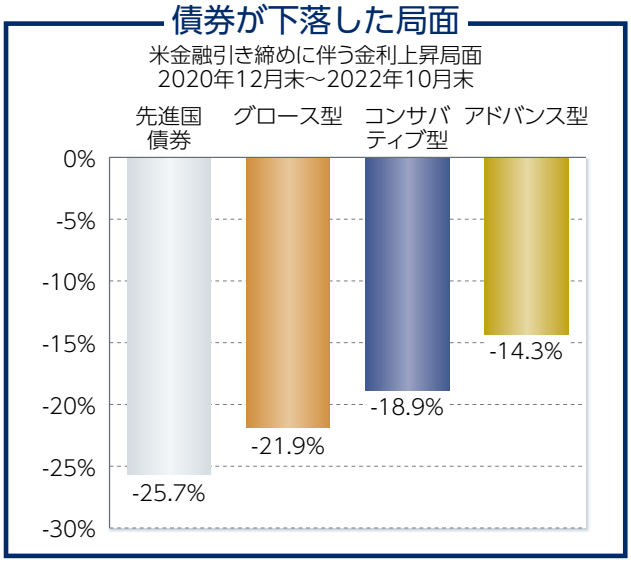
*1 ボラティリティは、当該期間の年率ボラティリティを指します。
*2 1ヵ月ボラティリティは、過去1ヵ月間（21営業日）の年率ボラティリティを指します。
投資先ファンドとは、各サブ・ファンドの投資先ファンド（コンサバティブ型・グロース型はゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V. ― ゴールドマン・サックス・グローバル・マルチ・アセット・コンサバティブ/グロース・ポートフォリオ、アドバンス型はゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V. ― ゴールドマン・サックス・グローバル・アブソリュート・リターン・ポートフォリオ（全て米ドル・ベース））を指します。

下落抑制効果

- 過去の実績では、下図の通り株価が下落した局面では先進国株式と比べ最大下落幅の抑制が実現できています。また、金利が上昇し債券価格が下落した局面では、先進国債券と比べ最大下落率が抑制できています。

<市場下落局面における投資先ファンドの最大下落率の比較>





出所：ブルームバーグ、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント　期間：2015年8月27日～2024年2月末
先進国株式：MSCIワールド・インデックス（配当込み）、先進国債券：ブルームバーグ・グローバル総合インデックス（共に米ドル・ベース）
※先進国株式、先進国債券は、各市場全体の動きをご参考として示すために使用していますが、当該インデックスは本ファンドのベンチマークや参考指標ではありません。
株式・債券が下落した局面は、先進国株式・先進国債券の日次の最大下落率が最も大きかった局面を指します。

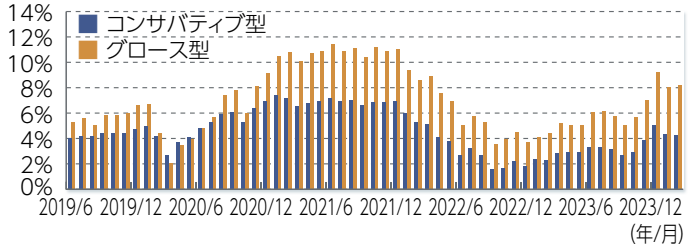
長期保有による安定成長

- ボラティリティを抑制することで、中長期で保有した場合の投資資産の安定的な成長が期待できます。下記は、各ファンドに5年間投資した場合の運用実績（年率リターン）で、多くの期間でプラスのリターンとなっています。

<投資先ファンドを5年間保有した場合の年率リターンのシミュレーション>

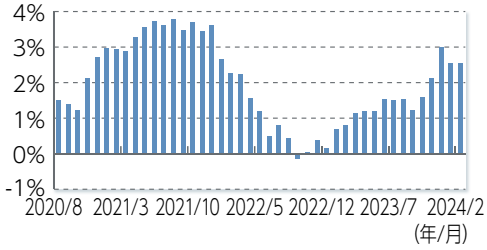
コンサバティブ型とグロース型

年率リターン 平均	コンサバティブ型	グロース型
	4.6%	7.0%



アドバンス型

年率リターン 平均	アドバンス型
	2.0%



出所：ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント　期間：コンサバティブ型とグロース型については2014年6月30日～2024年2月29日、アドバンス型については2015年8月31日～2024年2月29日。
投資先ファンドとは、各サブ・ファンドの投資先ファンド（コンサバティブ型・グロース型はゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V. ― ゴールドマン・サックス・グローバル・マルチ・アセット・コンサバティブ/グロース・ポートフォリオ、アドバンス型はゴールドマン・サックス・ファンズ S.I.C.A.V. ―ゴールドマン・サックス・グローバル・アブソリュート・リターン・ポートフォリオ（全て米ドル・ベース））を指します。
上記は、投資先ファンドの過去の運用実績であり、本ファンドの運用実績ではありません。あくまで情報提供を目的としたものです。上記は過去のデータであり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。実際には、投資元本の大幅な毀損や全損が生じる場合があります。詳細は主な投資リスクをご覧下さい。

特徴 3

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの総合力を活かした運用

世界の機関投資家から選ばれるマルチ・アセット運用チーム

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント（GSAM）

ゴールドマン・サックスの資産運用部門として1988年に設立。世界有数の資産運用会社として、世界の機関投資家、政府系機関、個人投資家から約359兆円*1の資産を助言・運用

*1 1米ドル=140.980円にて換算　2023年12月末現在

伝統的資産

- 債券通貨戦略
- 計量投資戦略
- ファンダメンタル株式戦略

オルタナティブ

- オルタナティブ・インベストメンツ・アンド・マネージャー・セレクション
- ダイレクト・オルタナティブ戦略

マルチ・アセット運用チーム　マルチ・アセット・ソリューションズ（MAS）

世界の機関投資家から選ばれる専門家集団

300名超の プロフェッショナル*2	25年以上 の投資経験*2	約3,400億米ドル の契約資産*2

*2 2023年12月末現在
出所：ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

以下のプレミアム・ファンズ内で、スイッチングが可能です。

	グローバル・コア債券ファンド	ウェルス・コアポートフォリオ	グローバル・コア株式ファンド
投資対象	世界債券	マルチ・アセット	世界株式
通貨	米ドル建て 円建て（ヘッジあり）	米ドル建て 円建て（ヘッジあり）	米ドル建て 円建て（ヘッジあり）
投資運用会社	JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナル	ブラックロック・ジャパン株式会社
特徴	世界の債券に幅広く投資します。	世界中のさまざまな資産に投資します。	世界の株式市場に幅広く投資します。
スイッチング	プレミアム・ファンズ グローバル・コア債券ファンド	プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ	プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンド

スイッチング*　スイッチング*

スイッチング*

*プレミアム・ファンズのサブ・ファンドであるウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型、ウェルス・コアポートフォリオ グロース型、ウェルス・コアポートフォリオ アドバンス型、グローバル・コア株式ファンドおよびグローバル・コア債券ファンドのすべてのクラス受益証券とのスイッチングを行うことができます。
※スイッチング手数料はかかりません。
※管理会社は、日本における販売会社または販売取扱会社と協議の上、スイッチングの取扱いを停止する場合があります。
※プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型ー米ドル建て承継機能付受益証券、プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンド、グローバル・コア債券ファンドの詳細については、同ファンドの「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

主な投資リスク

詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

投資信託のお申込みに際しては、投資信託説明書（交付目論見書）等をよくお読みになり、契約内容およびリスク・手数料等をご理解いただいたうえでお客様ご自身の判断と責任においてお取引ください。

●投資信託は銀行預金ではなく、預金保険制度の対象ではありません。また、SMBC信託銀行で取扱う投資信託は金融商品仲介口座を通じた取扱いの場合を除き、投資者保護基金の対象ではありません。 ●投資信託は、元本・利回りの保証はありません。

主な投資リスク

サブ・ファンドの受益証券1口当たり純資産価格は、サブ・ファンドに組み入れられている有価証券等の値動きおよび為替相場の変動等により上下します。また、サブ・ファンドの米ドル建て受益証券の純資産価格は外貨建てで算出されるため、当該通貨建てでは投資元本を割り込んでいない場合でも、為替変動により、円換算ベースでは投資元本を割り込むことによる損失を被ることがあります。したがって、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、受益証券1口当たり純資産価格の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。これらの運用および為替相場の変動による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。

以下は、サブ・ファンドの主な投資リスクの要点だけを述べたものです。サブ・ファンドへの投資には、他にも投資先ファンドの保有比率の低下および外国為替取引の相手方リスク等の投資リスクを伴います。他のリスクを含む詳細は、請求目論見書をご参照ください。

投資リスク　サブ・ファンドが投資目的を達成できるという保証はありません。管理会社は、サブ・ファンドへの投資にはリスクが伴うことに鑑みて、サブ・ファンドへの投資を中長期的投資と考えることを投資者に対して推奨します。

投資先ファンドへの投資に係るリスク　サブ・ファンドは、投資先ファンドへ投資しますが、投資先ファンドのポートフォリオは分散または流動性を欠くことがあります。それ故に、投資先ファンドのパフォーマンスの悪化は、サブ・ファンドのパフォーマンスの悪化を招きます。

投資先ファンドが米ドル建て以外の資産にも投資する場合があるため、サブ・ファンドは、米ドルとその他の通貨との為替変動による影響を受けます。

ヘッジ取引　円建て（ヘッジあり）受益証券の表示通貨（日本円）に対してサブ・ファンドの基準通貨（米ドル）の価値が下落または上昇することを軽減するためにヘッジ戦略が用いられることがあります。ヘッジ取引が行われた場合、円建て（ヘッジあり）受益証券の投資者は、ヘッジ取引により、円建て（ヘッジあり）受益証券の表示通貨に対する基準通貨の価値の下落から保護される可能性があります。しかしながら、ヘッジ取引により、投資者は、基準通貨の価値の上昇による利益を享受することができなくなるおそれがあります。
投資先ファンドでは、米ドル建て以外の資産にも投資しますので、円建て（ヘッジあり）受益証券においては、米ドルとその他の通貨との為替変動による影響を受け、かかる為替変動は米ドルと円の間の為替変動よりも大きくなる可能性があります。

投資先ファンドへの投資に関連する報酬　受託会社、管理会社、管理事務代行会社、保管会社、代行協会員、日本における販売会社および販売取扱会社ならびにサブ・ファンドのためのその他の業務提供会社の費用および報酬に加え、サブ・ファンドはまた、投資先ファンドの資産から支払われることがある全報酬および費用（投資先ファンドの管理会社およびその他の業務提供会社に支払われる報酬および費用を含みます。）を按分して間接的に負担します。

クロス・ライアビリティ　サブ・ファンドの受益証券の発行または販売を通じて受託会社が受領するすべての買付金額、当該買付金額が投資されるすべての資産、ならびにこれらに帰属するすべての収入および利益は、サブ・ファンドに係るものとして指定されます。いずれかのサブ・ファンドに帰属することが容易に見極められない資産は、受託会社の裁量により一つまたは複数のサブ・ファンド間に受託会社またはその代理人により配分されます。サブ・ファンドの資産は、サブ・ファンドの負債を負担し、原則として、他のサブ・ファンドの負債を弁済するために用いることはできません。管理会社は、債権者となりうる者との取引において、当該債権者が関連するサブ・ファンドの資産のみを引当てとすることができ、サブ・ファンドについて受託会社名義で締結されるすべての契約が債権者の請求権を関連するサブ・ファンドの信託財産の範囲内のみに限定する文言を含むよう確保する義務を負います。ただし、投資者は、サブ・ファンドの資産が別のサブ・ファンドの債務を弁済するために使われる範囲を数量化することがあらゆる場合に可能となる訳ではない点にご留意ください。

時間外取引およびマーケットタイミング　管理会社は、時間外取引もしくはマーケットタイミングまたはその他類似の取引方法を認めていません。かかる取引実施を回避するため、受益証券の発行および買戻しは未知の価格で行われ、管理会社は、締切時刻以降に受領した注文を受け付けません。管理会社は、マーケットタイミング行為が疑われる者からの買付注文およびサブ・ファンドへの転換注文を拒否する権利を有します。

強制的買戻しのリスク　管理会社は、その単独かつ最終的な裁量により、受益者の受益証券の全部または一部の買戻しを強制的に行う権利を有します。

買戻しによる損失の可能性　受益証券の買戻しは、投資対象の換金を必然的に伴うことがあります。かかる換金に起因してサブ・ファンド（およびその残存受益者）において、換金がなければ生じなかったと思われるコストを負担する可能性があります。

潜在的な税金リスク　いずれかの法域でサブ・ファンドに課される税金は、サブ・ファンドの純資産価額を削減し、またサブ・ファンドのパフォーマンスに悪影響を及ぼします。

グロース型、コンサバティブ型の投資先ファンドに伴う主な投資リスク

価格変動リスク　投資先ファンドへの投資には、株式、債券、リート、コモディティ、MLP等に関するさまざまな価格変動リスクが伴います。投資先ファンドは、金利動向、一般的な経済状況、金融市場の状況、特定業種の動向や傾向、発行体の財務状況、需給関係の変動、取引・財務・金融産業および為替に関わる規制および政府の方針、ならびに国内外の政治的・経済的事由および方針の影響を受けます。株価の下落、発行体の破綻や財務状況の悪化等の市場環境により、受益証券1口当たり純資産価格が下落し、投資元本を割り込み損失を被ることがあります。

債券の金利変動リスク・信用リスク　債券の価格は、通常、金利が上昇すれば下落し、金利が低下すれば上昇するといった特性を持っており、金利変動の影響を受けます。発行国や発行体の債務返済能力、事業状況・財政状況・経済状況、格付け、市場環境の変化等により、債券価格は大きく変動することがあります。デフォルト（債務不履行）が生じた場合またはデフォルトが予想された場合、債券価格は大きく下落することがあります。そのような場合、当該債券は適時に売買できないこともあります。また、取引相手方に債務不履行が生じた場合、投資先ファンドが損失を被るリスクがあります。

新興国への投資に伴うリスク　新興国への投資には、先進国の市場への投資と比較して、カントリー・リスクの中でも特に次のような留意点があります。すなわち、財産の収用・国有化等のリスクや社会・政治・経済の不安定要素がより大きいこと、市場規模が小さく取引高が少ないことから流動性が低く、流動性の高い場合に比べ、市況によっては大幅な安値での売却を余儀なくされる可能性があること、為替レートやその他現地通貨の交換に要するコストの変動が激しいこと、取引の決済制度上の問題、海外との資金決済上の問題等が挙げられます。その他にも、会計基準の違いから現地の企業に関する十分な情報が得られない、あるいは、一般に金融商品市場における規制がより緩やかである、といった問題もあります。

ヘッジファンド等への投資に伴うリスク　投資先ファンドは、ヘッジファンド等のオルタナティブ資産に投資することがあります。ヘッジファンド等は、デリバティブ取引を含むさまざまな投資手法を用いて、投資先ファンドの純資産規模に対して大きな取引および建玉（買いまたは売りの両方を含みます。）を発生させることがあります。このような場合、市場価格の変動以上に損失が拡大する可能性があります。

為替変動リスク　投資先ファンドは為替変動の影響を受けますので、為替市場の動向によってはその資産価値を大きく減少させる可能性があります。為替レートは一般に、外国為替市場の需給、世界各国への投資メリットの差異、金利の変動その他の様々な国際的要因により決定されます。また、為替レートは、各国政府・中央銀行による介入、通貨管理その他の政策によっても変動する可能性があります。

本戦略に伴うリスク　投資先ファンドは、市場環境等の変化に応じて柔軟に資産配分を変更し、リスク抑制のため、値動きの特徴が異なる投資対象を効果的に組み合わせることをめざしますが、市場の混乱や急激な変動、経済危機等により、市場参加者がリスク回避傾向を強めた場合等において、多数の資産が同時かつ急激に下落する局面では、投資先ファンドの受益証券1口当たり純資産価格が大きく下落することがあります。

サステナビリティ・リスク　投資先ファンドは、随時、サステナビリティ・リスクにさらされる可能性があります。サステナビリティ・リスクは、投資価値に実際にまたは潜在的に重大な悪影響を引き起こす可能性のある環境、社会またはガバナンス上の出来事もしくは制約と定義されます。サステナビリティに関する出来事または制約のユニバースは非常に広範囲であり、それらの関連性、重要性、投資への影響は、投資先ファンドが追求する投資戦略、資産クラス、資産配分および資産セクターなどの多くの要素に依存します。サステナビリティ・リスクが顕在化した場合、投資先ファンド内で保有されている投資対象の価値を減少させる可能性があり、投資先ファンドのパフォーマンスおよびリターンに重大な影響を与える可能性があります。

その他の留意点

サブ・ファンドの受益証券の取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）は適用されません。

アドバンス型の投資先ファンドに伴う主な投資リスク

P6　グロース型、コンサバティブ型の投資先ファンドに伴う主な投資リスクのうち、価格変動リスク・ヘッジファンド等への投資に伴うリスク・本戦略に伴うリスク・サステナビリティ・リスクについてもご参照ください。

モーゲージ担保証券（MBS）および資産担保証券（ABS）のリスク　モーゲージに担保されるMBSと資産に担保されるABSは、期限前に償還される可能性があり、その場合、リターンは低下します。

為替変動リスク　為替相場の変動は、資産のパフォーマンスから独立して、投資家が期待するリターンを減少・増加させる可能性があります。為替変動リスクを減らすために用いられる投資手法（ヘッジ）は必ずしも有効でない可能性があります。また、ヘッジは、デリバティブに関連する追加的なリスクを伴います。

債券の金利変動リスク・信用リスク　金利が上昇すると債券価格は下落します。これは、投資家が別の機会により魅力的な金利を得ることができることを反映しています。したがって、債券価格は、様々な原因、政治的および経済的な要因により変動する可能性のある金利の変動により影響を受けます。より高いインカム・ゲインを得られる投資商品であるハイ・イールド債は、信用リスクと経済発展に対する感応度が高く、低利回りの商品よりも大きな価格変動を引き起こします。投資先ファンドが保有する金融資産の発行体または取引相手方（カウンターパーティー）が支払義務を履行できなかった場合、投資先ファンドに悪影響を与えます。投資先ファンドが取引をする相手方当事者は債務不履行に陥る可能性があり、その場合、損失が生じる可能性があります。

デリバティブ・リスク　デリバティブ商品は、原資産の価値の変動に非常に敏感です。デリバティブによっては、当初投資額を超える損失が生じる場合があります。コール・オプションの売却時における前払金と引き換えに、投資先ファンドは株式の市場価値の上昇による利益について制約を受けるおそれがあります。上昇する市場では、投資先ファンドは市場を大きくアンダーパフォームする可能性があり、投資先ファンドのオプション戦略は市場価値の下落から投資先ファンドを完全に保護することができない可能性があります。

新興市場リスク　新興市場は、流動性が低く、金融、法律、社会、政治および経済の適切な構造、保護および安定性が欠如している可能性があり、不確実な税務ポジションを抱える可能性もあるため、より高いリスクがある可能性があります。

中国に関連するリスク　投資先ファンドは、ダイレクトアクセス制度により、および／またはボンドコネクトを経由して、中国の銀行間債券市場で取引される中国の債券に投資する場合があります。中国政府、政治、経済およびそれらに関係する事項についての多くのリスクがあります。

レバレッジ・リスク　投資先ファンドは、レバレッジを大きくかけて運営される場合があります。レバレッジは、デリバティブの利用により生じる経済的エクスポージャーが投資額を上回る場合に生じます。レバレッジをかけた投資先ファンドは、投資先ファンドの価値に大きな変動をもたらす可能性があり、このため、重大な損失を被るリスクを伴います。

お申込みメモ

詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンド名称	プレミアム・ファンズ　ウェルス・コアポートフォリオ				
	グロース型		コンサバティブ型		アドバンス型
	米ドル建て受益証券	円建て（ヘッジあり）受益証券	米ドル建て受益証券	円建て（ヘッジあり）受益証券	米ドル建て受益証券
商品分類	公募外国株式投資信託（追加型）				
ファンド設定日	2015年12月4日	2016年5月11日	2015年12月4日	2016年5月11日	2018年5月24日
申込価格	毎営業日の1口当たり純資産価格。				
申込単位	3,000米ドル以上 1米セント単位	50万円以上 1円単位	3,000米ドル以上 1米セント単位	50万円以上 1円単位	3,000米ドル以上 1米セント単位
追加申込単位	100米ドル以上 1米セント単位	1万円以上 1円単位	100米ドル以上 1米セント単位	1万円以上 1円単位	100米ドル以上 1米セント単位
買戻価格	毎営業日の1口当たり純資産価格。				
買戻単位	原則として各クラス証券1口以上1/1,000口単位（保有全受益証券売却の場合は1/1,000口以上、1/1,000口単位）				
買戻代金のお支払	原則としてお買戻申込日から起算して5営業日目（休日等により変更となることがあります。詳しくはお問合せください。）				
決算日	毎年11月末日				
営業日	ニューヨーク、ロンドンおよびルクセンブルグの銀行が営業している日で、ニューヨーク、ロンドンおよびルクセンブルグの証券取引所が営業している日で、かつ日本において銀行および金融商品取引業者が営業している日（土曜日、日曜日または12月24日を除きます。）、またはサブ・ファンドに関して管理会社が随時決定するその他の日をいいます。				
収益分配	本書の日付現在、分配金の支払いは予定されていません。				
購入時の費用（お申込手数料）	100万米ドル未満 1.1%（税抜1.0%） 100万米ドル以上 0.55%（税抜0.5%）	1億円未満 1.1%（税抜1.0%） 1億円以上 0.55%（税抜0.5%）	100万米ドル未満 1.1%（税抜1.0%） 100万米ドル以上 0.55%（税抜0.5%）	1億円未満 1.1%（税抜1.0%） 1億円以上 0.55%（税抜0.5%）	100万米ドル未満 1.1%（税抜1.0%） 100万米ドル以上 0.55%（税抜0.5%）
	※外貨建ての投資信託を円資金から該当通貨に交換のうえでお申込みの場合、別途、為替手数料が片道1円／往復2円（上限）かかります。				
投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用	サブ・ファンドにおける管理報酬等				
	年率1.39%（一部報酬において最低で年間15,500ユーロ）および 年率0.01%（最低で年間15,000米ドル、最高で年間30,000米ドル）の合計額				【2024年9月1日以降】年率0.74%（一部報酬において最低で年間15,500ユーロ）および年率0.01%（最低で年間15,000米ドル、最高で年間30,000米ドル）の合計額
	投資先ファンドにおける費用等				
	年率0.75%		年率0.60%		年率0.60%
	なお、各投資先ファンドが投資可能ファンドに資産の大部分を投資する場合、当該投資可能ファンドにかかる運用報酬の合計は投資可能ファンドに投資した資産に対し、年率2.5%を超えないものとします。また投資可能ファンドには成功報酬のかかるものもあります。				－
	その他の費用 仲介手数料、その他の運営費用および投資先ファンドにかかる費用等が信託財産から支払われますが、運用状況等により変動するものであり、事前に料率や上限額等を表示することができません。詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。				
スイッチングに関する留意事項	プレミアム・ファンズのサブ・ファンドであるウェルス・コアポートフォリオ　コンサバティブ型、ウェルス・コアポートフォリオ　グロース型、ウェルス・コアポートフォリオ　アドバンス型、グローバル・コア株式ファンドおよびグローバル・コア債券ファンドのあらゆるクラス受益証券とのスイッチングを行うことができます。 ※スイッチング手数料はかかりません。 ※管理会社は、日本における販売会社または販売取扱会社と協議の上、スイッチングの取扱いを停止する場合があります。				
	手数料および費用等の合計額およびその上限額ならびにこれらの計算方法については、各サブ・ファンドおよび各投資先ファンドの運用状況や受益証券の保有期間等に応じて異なるため表示することができません。				
お買戻時の費用	ありません				

インターネット取引　可　SMBC信託銀行・ホームページ　https://www.smbctb.co.jp

*税法が改正された場合等には、上記手数料率が変更される場合があります。

*SMBC信託銀行の判断により、取扱いが停止となることがあります。詳しくは、SMBC信託銀行にお問合わせください。